

横浜システム工学院専門学校
令和 6 年度学校関係者評価報告書

1. 学校関係者評価委員会実施報告

日 時 令和 7 年 7 月 24 日（木）16 : 00～17 : 00

場 所 横浜システム工学院専門学校 1 階 会議室

参加者 《学校関係者評価委員》

富樫 和弘 （一社）神奈川県情報サービス産業協会 副会長

S E 講座特別委員会 委員長

（株式会社情創 代表取締役社長）

前山 浩志 デジタルコム株式会社 代表取締役社長

（一社）神奈川県情報サービス産業協会 副会長

新井 一功 ネクストポイント株式会社 執行役員

鈴木 晶 株式会社アナザーウェア 代表取締役社長

（横浜商工会議所 情報関連産業部会）

関口 良太 株式会社 GR Support 代表取締役

鈴木 誠 鈴木誠中小企業診断士事務所 代表

濱田 恵美 保護者

《事務局》

杉山 勝巳 横浜システム工学院専門学校 理事長 学院長

富永 英世 横浜システム工学院専門学校 先進 IT 教育指導室 室長

花島 恒登 横浜システム工学院専門学校 先進 IT 教育指導室 室長補佐

田中 正彦 横浜システム工学院専門学校 先進 IT 教育指導室 室長補佐

高貝 律弘 横浜システム工学院専門学校 グローバル IT 教育指導室 室長代理

瀬戸 幸司 横浜システム工学院専門学校 情報基盤整備センター センター長

杷野 恭久 横浜システム工学院専門学校 キャリアセンター センター長

杉山 明彦 横浜システム工学院専門学校 理事 総務企画室 室長

資 料 ・ 令和 6 年度事業報告書

・ 令和 6 年度自己点検評価報告書

2. 学校関係者評価と意見

(1) 教育理念・目標

評 価 項 目	自己 評価	学校関係者の評価と提言
理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	妥当と評価した
学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか	4	妥当と評価した
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか(コース修了後に、学習者がそのコンピテンスのレベルを必要とする目的や状況が明確にされているか)	4	妥当と評価した
学校における職業教育の特色は明確になっているか	4	妥当と評価した
理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	妥当と評価した

(2) 学校運営

評 価 項 目	自己 評価	学校関係者の評価と提言
専修学校設置基準及び職業実践専門課程の認定要件に沿った適切な運営がなされているか	4	妥当と評価した
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	妥当と評価した
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	妥当と評価した
目的等に沿った事業計画が策定されているか	4	妥当と評価した
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	妥当と評価した
人事、給与に関する制度は整備されているか	4	妥当と評価した
専任教員は適正に配置されているか(専任教員や非常勤講師の過当たりの担当コマ数などの講義・実習負担は妥当であるか)	4	妥当と評価した
教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか	4	妥当と評価した

業界や地域社会等からの意見の収集・分析・応答の仕組みが できているか（苦情及び要請への対応を含む）	4	妥当と評価した
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	妥当と評価した
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	妥当と評価した
教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥 当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施してい るか（モニタリング及び評価の結果を考慮して、学習サービスの改 善・変更を実施しているか）	4	妥当と評価した
学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応な ど、不適合を特定し、対処する手順（予防処置及び是正処置）を確 立しているか	4	妥当と評価した
学生及び保護者等が不満を抱いている場合や、学校側と意 見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか	4	妥当と評価した

（３）教育活動

評 価 項 目	自己 評価	学校関係者の評価と提言
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関 としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の 確保は明確にされているか	4	妥当と評価した
学習参加の前提としているスキルや要件などに不足がない かを確認するためのアンケートやヒアリングを行っている か	4	妥当と評価した
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュ ラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	妥当と評価した
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定され ているか	4	妥当と評価した
少なくとも年１回、カリキュラム、学習教材及びアセスメン ト教材の見直しを行っているか	4	妥当と評価した
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づ けはあるか（発行する修了証明書の種類及び内容）	4	妥当と評価した
講義および実習に関するシラバスは作成されているか （学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか）	4	妥当と評価した
シラバス（作成されていればコマシラバス）には到達目標が 記載されているか（Can-Do を意識した到達目標の明示）	4	妥当と評価した
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインタ ーシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられ、その	4	妥当と評価した

内容、評価法などが事前に決められているか		
学習サービスの設計時に、予定しているモニタリング及び評価の手順を明確にしているか	4	妥当と評価した
シラバスあるいは講義要項（作成されていればコマシラバス）などが事前に学生に配布され、授業で有効活用されているか（あるいはホームページなどで公開されているか）	4	妥当と評価した
実技・実習が講義と連動していたり、講師と学習者の比率をカリキュラム設計時に考慮するなど、効果的学習に配慮されているか	4	妥当と評価した
カリキュラムの作成・見直し等に関し、定期的に外部者（企業・団体、学会・協会、関連する業界団体等）の評価や意見を取り入れているか（ニーズ分析の結果を利害関係者間で共有しているか）	4	妥当と評価した
実技・実習に先立って、職業倫理や情報の取扱いに関する規程・マニュアルや規則が整備され、公表されているか	4	妥当と評価した
学生や保護者に対し、成績評価・単位認定の基準、進級要件、卒業要件はきちんと提示されているか	4	妥当と評価した
職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか （スポンサーの学習サービスに対する満足度の分析、並びにスポンサーからの学習サービスの質向上に関するフィードバック及び提案の分析を含む）	4	妥当と評価した
アセスメントの結果は、公平性、透明性及び守秘義務の原則に鑑みて、確立された権限又は正当な承諾を得た者のみ閲覧可能とされているか（閲覧制限）	4	妥当と評価した
カリキュラム設計及び開発の経験を有している、もしくは訓練を受けたファシリテーターなどが、カリキュラムの設計及び開発を担当しているか	4	妥当と評価した
学習教材は、学習内容の実際の有用性を考慮した実践的かつ最新のものであり、社会的ニーズ、文化的ニーズ及び学習者の背景を考慮して選択されているか	4	妥当と評価した
カリキュラムを設計又は見直す際に、過去に提供した類似の学習サービスに関する評価の結果を考慮しているか	4	妥当と評価した
学内で使用又は開発した学習リソース(資源)の出典及び著作権について、適正に処理できているか	4	妥当と評価した

（４）学修成果

評 価 項 目	自己 評価	学校関係者の評価と提言
学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか（測定する知識、スキル及び能力、測定の基準、アセスメントの方法は明確か）	4	妥当と評価した
就職率の向上が図られているか（卒業生の就職率）	4	妥当と評価した
目標とする資格試験等への合格率はどうか	3	受験者数をより増やすため、学生への動機付けを強化してはいかがか
退学率の低減が図られているか（受講登録、出欠状況及び学習者の減少に関する分析が行われているか）	3	低減努力が続けられている
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか）	3	卒業生からの意見を積極的に集め、教育に反映していただきたい
学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか	4	妥当と評価した
要請があった場合には、学習者又はスポンサーに対して、a) 学習サービスの名称及び目的や b) 指導時間数、c) 達成度などの情報を含む修了証明書を提供しているか	4	妥当と評価した
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3	卒業生への調査により、卒業生の状況を把握に努め、教育活動の改善に活用してほしい
コースの開始前又は開始時に、学習する内容に関して学習者が有するコンピテンスのレベルについて、アセスメントを行っているか	4	妥当と評価した
コース全体を通して、及びコースの修了時に、学習者の習熟状況をアセスメントしているか	4	就職内定状況から習熟状況がアセスメントされている

(5) 学生支援

評 価 項 目	自己 評価	学校関係者の評価と提言
進路・就職に関する支援体制は整備されているか (またそれはきちんと学生や保護者に周知されているか)	4	妥当と評価した
学生相談に関する体制は整備されているか (相談窓口が設置されているか)	4	妥当と評価した
保護者と適切に連携しているか(保護者のニーズを把握しているか)	4	妥当と評価した
社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	妥当と評価した
卒業生への卒業教育等の支援体制はあるか	4	妥当と評価した
図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか	3	より積極的に利用されるように案内していただきたい
奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	妥当と評価した
学生の健康管理を担う組織体制はあるか(学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口は整備されているか)	4	妥当と評価した
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	妥当と評価した
学生の生活環境への支援体制はあるか (学生のアパート探しなど、住環境への支援体制はあるか)	4	妥当と評価した
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	妥当と評価した
学習に関する要望, 学習に関する要望を取り巻く状況及び通学の障害となる要因(距離や費用等)を理解し、解決に向けた提案を行っているか	4	妥当と評価した

(6) 教育環境

評 価 項 目	自己 評価	学校関係者の評価と提言
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか（講義室は学生数、時間割にあわせ、無理なく配備されているか）	4	妥当と評価した
カリキュラム上必要となる実習に用いる教材・器材及びソフトウェア等を使用できる実習環境が整っているか。また必要な数の教材及びライセンスが準備されているか	4	妥当と評価した
教員・講師に対して、学習指導のための教育訓練や教材の利用についての訓練を実施しているか	4	妥当と評価した
教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか	4	妥当と評価した
防災に対する体制は整備されているか	4	妥当と評価した
学内外の実習施設、インターンシップ、会議研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	妥当と評価した

(7) 学生の受入れ募集

評 価 項 目	自己 評価	学校関係者の評価と提言
学生募集活動は、適正に行われているか	4	妥当と評価した
履歴書（学歴、所有資格など）を適切に入手し、適切な管理を行っているか	4	妥当と評価した
学校案内等には選抜方法など、入学に必要な学力、スキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか	4	妥当と評価した
学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか	4	妥当と評価した
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか （評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか）	3	妥当と評価した
学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか	4	妥当と評価した
教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか	4	妥当と評価した
学納金は妥当なものとなっているか	4	妥当と評価した
学校運営責任者の情報や、教員・講師の適格性・経験などの情報を提供しているか	4	妥当と評価した
学習者の満足度に関するフィードバックを入手する手順、並びに彼らの要求、提案及び苦情に対応する手順など、学校生活での支援体制について入学前に伝えているか	4	妥当と評価した
教授資格、教歴及び背景など、学習サービスを担当するファシリテーターのプロフィールについて、オープンキャンパスなどで紹介しているか	3	妥当と評価した
学習サービスの請求書は、明確、かつ学習者(又は適切な場合には経費支弁者)が何の代金を請求されているのか理解できるよう、必要な全ての詳細を含んでいるか	4	妥当と評価した
学習者又はスポンサーから要請があった場合には、支払の証明を提供しているか	4	妥当と評価した

(8) 教育の内部質保証システム

評 価 項 目	自己 評価	学校関係者の評価と提言
学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか（定期的に実施しているか）	4	妥当と評価した
評価の範囲、目標、根拠、基準、方法及びスケジュールを含む、モニタリング及び評価の手段などを考慮し、モニタリング及び評価のプロセスを設計しているか	4	妥当と評価した
適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか（学習ニーズの充足や教育内容、カリキュラム、教材を評価しているか）	4	妥当と評価した
適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか（適格者によるモニタリング及び評価を実施できているか）	3	自己点検評価、学校関係者評価、内部審査、第三者評価を毎年実施している
教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況（学習環境等）を確認・検証しているか	4	妥当と評価した
学習サービスの提供に関わる教員・講師以外の職員は、自らの職務をやり遂げるために必要なコンピテンス及び適格性を有しているか	4	妥当と評価した
全ての教員・講師に対して、当該学習分野又はスキル分野に関する必要なコンピテンスを有しているかを評価し、それらの評価結果を記録しているか	4	妥当と評価した
専門分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員・講師の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか（研修等の効果を評価し、文書により記録しているか）	4	妥当と評価した
教員・講師に対して、割り当てられた職務及び責任、学習サービスの評価結果、本人の専門能力開発のニーズに対する見解を考慮に入れて、専門能力開発の計画を作成しているか	4	妥当と評価した
職業関連分野における業界等との連携において優れた教員（専任・非常勤含め）の提供先を確保するなどの取組が行われているか	4	妥当と評価した
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	妥当と評価した
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	妥当と評価した
アセスメント結果のレビュー等が適切に行えるよう、文書管理規程や文書管理リスト（ファイル管理簿）が整備されているか	3	妥当と評価した

自己点検・評価結果を公開しているか（報告では、学習サービスの目的を踏まえ、明確に結論及び根拠を説明しているか）	4	妥当と評価した
代講が必要な場合、適格なファシリテーターが対応できるように手配し、当該ファシリテーターに学習サービスの準備及び提供について指導しているか	4	妥当と評価した
ファシリテーター及び学習者に対して、印刷教材・電子教材の複写及び利用に関する規則について情報提供しているか	4	妥当と評価した
教員・講師は、経験を有し、日本国内において認知されている教授資格を持っている、又は認知されている講師養成訓練を受けているか	4	妥当と評価した
質保証を目的とした授業や学習の定期的な観察を実施しているか	3	妥当と評価した

（９）財務

評 価 項 目	自己 評価	学校関係者の評価と提言
財務について会計監査が適正に行われているか	4	妥当と評価した
財務情報公開の体制整備はできているか	4	妥当と評価した
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	妥当と評価した
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	妥当と評価した

（１０）社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	自己 評価	学校関係者の評価と提言
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	妥当と評価した
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	妥当と評価した
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	妥当と評価した

(1 1) 国際交流（必要に応じて）

評 価 項 目	自己 評価	学校関係者の評価と提言
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	妥当と評価した
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等 がとられているか	4	妥当と評価した
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備 されているか	4	妥当と評価した
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか (該当する場合には、広く知られている国内又は国際的(測 定)尺度を参照しているか)	4	妥当と評価した

3. 学校関係者評価と意見の総括

本年度の自己点検評価においては、学習成果、学生募集、地域貢献等の各項目に対して、委員から貴重な意見をいただいた。

まず「学習成果」に関しては、国家資格の受験者数が伸び悩んでいる要因として、学生が資格取得の意義や実務における有用性を十分に理解できていない可能性があるとの指摘を受けた。今後は、学生への動機づけをより一層強化していく必要があるとの提案がなされた。

「学生の受入れ・募集」に関しては、教育成果の発信にあたり SNS やホームページ等の活用を進めている現状を報告した。また、「デジタルビジネスデザイン科」の教育内容については、ノーコード教育の導入を評価する意見がある一方で、最低限のプログラミング知識の習得も必要ではないかとの指摘があり、今後のカリキュラム検討課題とした。

「社会貢献・地域貢献」では、留学生に関する近隣からのクレームが寄せられることがあり、再発防止に努めていることを説明した。文化や習慣の違いによる誤解や摩擦を未然に防ぐため、学生へのきめ細かな指導や予防的な対応を継続してほしいという意見をいただいた。